

2002 年度

大会新で2連覇達成

関西実業団駅伝 (和歌山県：龍神村 80.45km)

3時間56分58秒 (優勝・大会新)

大塚製薬が連覇

独走で大会記録を更新

関西実業団駅伝

第45回関西実業団対抗駅伝大会は17日、和歌山県の龍神村コース(7区間、80・45km)で17チームが参加して行い、釜山アジア大会五千代表の岩佐敏弘が最長5区(16km)を走った徳島県の大塚製薬が、3時間56分58秒の大会新記録で2年連続5度目の栄冠に輝いた。2位は佐川急便。3位は山陽特殊製鋼が入った。大塚製薬は1区目の細川道隆が首位でたすきをつなぐと、3区目の尾池政利が区間1位の力走。5区目の岩佐も47分19秒の区間新をマークし、独走態勢を築いた。アンカーの千葉信彦も区間新の快走をみせ、6年前に大塚製薬がつけた大会記録を1分50秒縮めゴールした。

▽総合成績①大塚製薬 細川道隆 23分24秒
北川 尾池 井崎 岩佐 水口、千壽 3時間56分58秒②佐川急便 4時間0分7秒③山陽特殊製鋼 4時間1分30秒④四国電力 4時間2分5秒⑤NTT西日本 4時間4分6分35秒⑥大阪府警 4時間7分7秒
△区間1位と大塚製薬勢の記録
▽1区(12・6km)①細川道隆 37分49秒
▽2区(7・68km)①藤川三歩 37分15秒②北川敏夫 37分2秒③大塚新 37分2秒
▽3区(10・87km)①尾池政利 30分42秒
▽4区(9・5km)①岩佐敏弘 47分19秒
▽5区(16km)①岩佐敏弘 47分19秒
▽6区(11km)①尾池政利 32分50秒②大塚新の白石 紀幸 33分14秒
▽7区(12・8km)①千葉信彦 37分2秒②大塚新 37分2秒

は山陽特殊製鋼が入った。上位6チームが来年1月1日にある全日本実業団駅伝大会(前橋)への出場権を獲得。大塚製薬は9年連続10度目の出場となる。大塚製薬・細川道隆選手(トップでたすきをつなぎ)、「アイメッセージ」のレース。



(四国電力の)野口との先頭争いになったが、下りのラスト400mあたりからうまく仕掛けることができた。



尾池政利選手(3区で区間賞に輝き)「狙っていたのでうれい。大会前の調整練習から調子はよかったです。まず1位をキープすることを考えて走った」

無敵の走り 鮮やか 大塚製薬

鮮やかな「独走劇」だった。2位の佐川急便に3分9秒の大差をつけ、大会新記録での連覇に大塚製薬の河野監督は「選手一人ひとりがしっかり調整し、自分の力を出し切った結果」と満足そうに話した。7区間のうち4区間で区間賞を取った。長丁場の5区で区間新を出した岩佐は「前半にリードしてくれたので、余裕を持って走る事ができた」。昨年に続いてアンカーを任された千葉も区間新をマーク。「2位とは差があったので、大会記録更新を狙っていい」。



大会新記録をマークして優勝した大塚製薬のアンカー千葉信彦(和歌山県龍神村)

た」と、会心の走りを振り返った。「関西に敵なし」を印象づけたこの日のたすきリレー。前回大会で7位に初入賞した元日の全日本実業団駅伝に向け、各選手は「さらに上位を目指したい」と口をそろえた。12月1日の福岡国際マラソンに出場するシドニー五輪マラソン代表の犬伏も、レース後には合流する。「控え選手も力をつけてきている」と河野監督。選手間には「しっかりと根付いた競争意識が、チーム力の向上につながっている」。

徳島新聞 9/20
徳島新聞 10/11